

Alma Mater SAPIENTIA

英知大学同窓会会報

Vol. **7** Mar.10.1997

発行：英知大学同窓会 兵庫県尼崎市若王寺2-18-1

発行責任者：野村裕

編集：英知大学同窓会総務委員会

- 新正会員をお迎えして……1
- 学園だより……2
- 土曜講座のお知らせ……3
- ホームカミングディ……4
- 卒業生からの手紙……5
- 関東支部だより……6
- クラブ紹介……7
- BOOK REVIEW……7
- 同窓会と大学の関係を有機的なものに……8

新正会員をお迎えして

会長 野村裕

卒業生の皆様、ご卒業を心よりお喜び申し上げます。ともに、同窓会への正会員としての入会を、力強く思い、こころより歓迎の意を表わしたいと思います。

我々の学生時代と比べると大学もますます大きくなり、学生数も、数段の違いがあるのには驚いています。しかし、学生数人に話を聞くと、クラス単位はあるものの、クラス全員の顔を知っているわけではなく、我々の学生時代の様に、一回生〜四回生のほとんどの人と顔を知っていた経験をもつ者にとつては、何か信じられない思いであります。何か、さびしさと残念さを思いながらも、集団の人の触れ合いの無さや時代のすう勢、人数が増えると、そういうものかなアーという思いです。

学生時代は、ほとんど規制のない時間、考え方、行動、人間関係、等々、手にする自由は、無限大にあつたように思います。先輩から、社会は厳しいとよく言われていましたが、自分で、その厳しさの経験をしてみないとなかなかわからないものです。

今は、学歴社会から実力社会への転換期と、よく言われますが、現実には、まだまだ、大学名や学閥といった偏見が、実際にはあります。我々の大学のように、まだまだ卒業生が少なく、世に言う有名大学でない場合、現実社会においても、その部分においては、マイナスの面を経験するかも知れません。しかし、これからの社会は、規制緩和を

はじめ、上場会社が倒産するような時代で、過去の尺度では、計りきれないことが、現実には、多々起こってきております。その時々、各個人が「どうするか」という観点で物事を判断し考えていかなければなりません。それは、学生時代と比べて、より以上に「主体的自主的責任」を持った発言、行動、考え方を要求され、指摘されていくものと思います。

まだまだ、他大学に比べると助けてくれる卒業生が少なく、今日からは、一人ひとりが一匹狼的に社会で力強く生きていかなければならなくなります。ある種の冒険心、チャレンジ精神を持ち、頭が柔軟で、古い知識に染まっていけない若い力が、今必要であると思います。ここで、持ち続けてほしいパワーは、自ら主体的に考え、そして、行動していくことです。

そうすることが、我々同窓生が側面的に大学を支えているということに結びつくと思います。すなわち、同窓会会員は、卒業して始めて母校の看板を背負うのです。「英知大学」が社会において高く評価されるか否かは、ひとえに、私達同窓生の努力にかかっているということです。それには、まず、みずからが大学に誇りを持つことです。卒業生の皆様はこれから、広く各領域で活躍されることでしょう。その活躍を通じて母校の素晴らしさをもっと多くの人々にわかってもらえればと思います。

また、さびしくなり、つらくなくなり、たまたまなくなった時、明るく、楽しく迎えてもらえる所が、同窓会だと思っています。

ホッとできる安息の場の提供、組織作り、人の輪、充実した情報を提供できるよう、会員の皆様の協力のもと、役員一同、頑張っていきたいと思っております。



キャンパス

美化整備工事進む

昨年10月、かねてより推進中のキャンパス美化整備の第一期工事が終了し、キャンパスは一段と様変わりしました。

校門を入るや、メインストリートから学生会館を東方向に、さらに食堂へのポプラ並木道も、モザイク煉瓦が敷き詰められ、修理跡だらけだったアスファルト姿から

メインストリート中央には、十字架をイメージしたモニュメントが立つなど、一段と落ち着いた雰囲気となりました。校門からこの十字架の延長線の先に後でご紹介する南門が新設され、全体の調和をとることとなります。

今後、来年9月までの間には何回かに工期を分けて、美化整備工



レンガ敷きのポプラ並木

事が進められます。ここでは、そのおおまかな工事内容を、以下にご紹介いたします。

●学生サロン館(仮称)を建設。

学生会館東側、百合学院と隣接する駐車場に、学生のためのサロン館が建設されます。中には、外来のお客さまの応接もできるような喫茶コーナーと学生のための学用品や日用品を売る売店コーナーなどが開設されます。店舗の委託先などは、まだ決定していません。

この工事は、南門と東門の新設とともに、本年3月に完成の予定です。これに伴い、学生の乗用車での乗り入れは禁止となります。しかし、外来のお客さまや特別に許可を得た方には、別に駐車場が準備されます。

●南門と東門の新設。

学生の自転車や単車のための駐輪場が南のテニスコート隣りに新設されます。このために、南門が新設されます。また、研究棟の東

側にも納品搬入車両などのために東門が新設されます。

これらは、本年3月末の完成を目指して工事が進められています。

●大学周辺の整備。

正門の改築と念願の正面の水路に蓋をし歩道とするなど、周辺の景観を考慮し、美化整備が進められます。現在尼崎市では、近松公園から若王寺の帯にかけて文教地区としての整備が進められていますが、この事業とも協調しております。園田カトリック教会や百合学院などと一層アカデミックで落ち着いた雰囲気を醸し出すことでしよう。

また、キャンパス内や大学敷地境界線における植材も見直し、静かな研究と教育の場を演出する計画です。



中央には十字架をイメージしたモニュメント

●英知タワーの新設。

図書館と学生会館との間、モニュメントを跨ぐ形でタワー棟が新設されます。50メートルクラスの

建物で、新幹線からも阪急電鉄からも良く確認でき、本学を改めて誇示できるものとなるでしょう。このタワーの中には、大学の中枢部となる部門や各種のセンター、会議室などが開設されます。

1998年10月のタワーの完成で、キャンパス美化整備工事は全て完了する予定です。

従って来年の同窓会総会やホームカミングデイは、新装なった環境をご覧いただけるでしょうが、本年におきましても充分その変わりように、驚かれることでしょう。是非、ご来学ください。事務局一同、心よりお待ちしております。

英知大学キャンパス美化委員会委員
英知大学同窓会事務局代行

須澤 晃



建設が進む南門(後ろは関西電力・総合技術研究所)



西側には、西門が建設中



「土曜講座」開講

新年度(本年4月以降)の「土曜講座」が始まります。土曜講座は、通常の授業とは異なり、土曜日に各種の公認資格取得や受験対策のための講座が開催されています。

この講座は、四年前から在校生のために開講されましたが、昨年からは卒業生にもご参加いただけるように準備し、ご案内しております。昨年は、十余名の卒業生が参加され、「宅建」試験に合格されたりTOEICの優秀なスコアを取得されるなど多くの成果を得ておられます。今回も左記のとおり、認定試験や講座を企画いたしました。同窓会の皆さまにも、是非ふるってご参加くださいますよう、ご案内いたします。

「TOEIC」試験
Test Of English
for International
Communication

- 第3回 3月20日(土)
 - 第4回 6月28日(土)
 - 第5回 9月27日(土)
 - 第6回 12月20日(土)
 - 第7回 3月28日(土)
- 時間は、いずれも
午後1時30分～4時30分。
■場所は、英知大学内教室。
■受検料は、4,800円。
■現在、第3回と第4回を受付け中です。

「TOEIC
ブラッシュアップ講座」

- TOEICスコア百点アップを目指して、ネイティブスピーカーによる指導でブラッシュアップを図るコースです。
- 第3回コース(春夏)
4月19日～9月20日
 - 第4回コース(秋冬)
10月11日～3月14日



- 時間は、毎週土曜日の
午前9時30分(休憩)
～12時45分
(90分授業で、計40コマ)
- 場所は、英知大学L1教室。
■受検料は、3,900円。
(テキスト代および終了後の
TOEIC受検料を含む)
- 現在、第3回を受付け中。

「公務員試験受験対策講座」

- 第4回コース(開講中)
11月30日～7月26日
 - 第5回コース
11月8日～翌7月26日
- 時間は、毎週土曜日の
午前9時30分(休憩)
～12時45分
(90分授業で、計64コマ)

その他の講座

右記以外にも左記の講座を検討中です。1クラスにつき、15名以上で30名程度までの定員と考えております。15名以下の場合是不開講となりますが、その場合は悪しからずご了承願います。

「開講予定の講座」

- 宅地建物取引主任者・資格試験対策講座



レンガ通りに様変りしたメインストリート

「一般旅行業務取扱主任者・資格試験対策講座」

「パソコン講座」などを検討中ですが、これらの講座は10月から募集の予定です。詳細は、就職課藤原か楠川までお問い合わせください。

「お申込みのご案内」

電話かFAXまたは、電子メールでお申込ください。就職課事務室に申込み用紙を準備しておりますので、直接ご来室いただくか、用紙を送りいたします。

電話&FAX

(06)4911-7169

E-mail: akisuz@gol.com

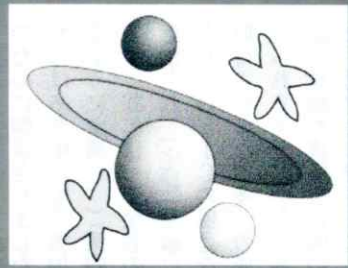
費用は直接ご持参いただくか、左記までお振込みください。

なにわ銀行園田支店
普通23007

英知大学就職課 須澤晃
「再び学ぶ心」を母校で実現してみたいかがでしょう。

是非、多くの卒業生の皆様のご参加をお待ちいたしております。
(就職課長 須澤 晃)

同窓会レポート



ホームカミングデー

平成4年英文科卒 前中成仁

昨年11月3日に恒例のホームカミングデーが、食堂で行われま

した。今回同窓会総会は、年々同窓生の参加者が増加するのにもない、総会会場とパーティ会場との移動時間などの効率を考え、今まで行なっていた階段教室からパーティ会場の食堂で開催しました。パーティ会場とあつてか関東支部ニュースでもご指摘があつたのですが、やや集中力に欠ける嫌いがあつたことは否めず、今後の課題を残すことになりました。また、総会途中出席者の一人の方が突然立たれ、震災義援金に対して感謝を述べられた姿はとても印象的なものでした。

恒例の楽しいパーティ

パーティの方は、焼き肉・パエリヤ・サンドイッチ等を囲み、久しぶりの再会に感激する姿は、いつみても私達の心を和やかにさせてくれます。また、ビンゴゲームでは、番号を読み上げる度に歓声が上がリ私達を童心に戻してくれるとても楽しい一時でした。今年も皆さんに喜んでいただけるようより一層の努力をして行きたいと思つていきます。

今こそ 英知!

ある人が「今問われているのは人間理解。人間を知ること、社会を知ることもあるのです」その根本は、個人であり、集団である人間なのです。「社会科学や自然科学ではなく人文科学(文学・宗教・哲学・教育・心理学)こそがこれからの時代を担っていくのではないのでしょうか」と言っています。人文科学!これぞ英知大学そのもの。だから「今こそ英知」なのです。そこで私は、もしこんな英知大学同窓会があつたらと考えてみました。例えば、

- 「TOEIC(英語)・宅建・公務員等の講座(すでに就職課で実施)
- 「聖書から学ぶ人生を考える会」
- 「21世紀の教育を考える会」
- 「松下孝之助から学ぶ成功哲学の会」
- 「パソコン・インターネットを



学ぶ会

- 「減塩はうそだった!正しい食と健康を考える会」
 - 「いつもきれいで、美しくいられる会」
 - 「やすくて、おいしい料理を研究する会」
 - 「アウトドアなどイベントを楽しむ会」
 - 「恋愛上手になれる会」
 - 「結婚生活を上手く成せる会」
- などなど、なんでもいいのです。これは、あくまでも私自身の片寄つた仮説ですが、何か興味をそそるものがありましたでしょうか。もしあつたならば、その、今感じたい気持ちをどうか大切にしてください。
- そして、例えば、始めは茶飲み友達からいいのです。その研究成果をこの会報やホームカミングデーで発表するのです。そうすれば「百匹目の猿現象」ではないです

が、いいものはきつと人々に関心を寄せてもらえると思います。そうなれば楽しいと思いませんか。私はワクワクしてきます。そして、なにより自分が楽しみたいからするのだと思うのです。

今の自分の気持ちに期待してみることから始まるような気がします。わが母校の同窓会は、それを実現させてくれる可能性を秘めていると思います。そして、一人ひとりの自分らしさ(アイデンティティ)が、私達の同窓会を創造し、やがてそれが母校の発展につながると私は信じています。

「汝を知れ」というソクラテスの言葉の、本当の意味がわかるのに30年もかかったと、あるベストセラー翻訳家(当時54才)が書いていました。最近私は、幸運にも頭ではなく心から気づく機会に恵まれました。同窓会の活動に対して、もう少し前向きにとりくんでみようと思ひ直したのです。何よ



りも自分自身が楽しむために。英知大学というひとつのきずなを元に人々が集まり、心安まる時を過ごせたならどんなに素晴らしいでしょうか。



未熟者の片寄つた考えを押しつけるつもりは毛頭ありません。しかし、批判を含め何か感じたことがあつたならば、どうかその今の気持ちを手紙かファックスで同窓会事務局宛に送つて下さい。同窓会の活動と堅苦しく考えるのではなく、同じ趣味、興味を持った人たちが気軽に集まれる場所を作ろうではありませんか。その個人の声が、これからの英知大学同窓会にとって宝となることを私は信じて止みません。皆様のご意見、ご感想を心よりお待ちしております。

なお、電話での問い合わせはしておりませんので悪しからず。

〒661 尼崎市若王寺2-18-1

英知大学同窓会

TEL 06-4988-6258

FAX 06-4988-6258

それでも、
やっぱり

中村智恵美

今年の春に大学を卒業し、 念願だった教職の道に進んだ。



事実、このように思ってしまった。昨年の春頃は随分ときどきちななかつた。更に、

「ことがうまくいかんのは、全部生徒のせいや」

と思ったことで、授業のやりづらさが倍増した。そんな状況の中で、どうして職業として教師を選んだのだろうと悩んでいたら、こんな言葉に出会った。

「人は皆、自身の鏡と思いなさい」
痛い一言だった。授業がやりづら
いは生徒が悪いと考えていた私
は、いや、私の心はどうだったろ
う。

彼女たちが理解できないと思っ
て、その後は？私自身が心をぬい
て理解しようと、本気で努めてい
ただろうかと、我に返ったら、問
題は、まず私自身にあったのだな
と気づいた。

一線を引いてしまっている私な
のに、生徒には心を開きなさいと
いうのは虫のいい話である。そん
な私の心が反映している授業を受
けている生徒が何も気づかないは



ずがない。いつでも子供は敏感な
のだ。当然、彼女たちも心を閉ざ
すに決まっている。それがやっと
分かった私に知人はこう言ってく
れた。

「子供、生徒というのは瞬間、瞬間
に成長している。その真つ只中に
いるあなたが、固い心で、自ら
の心の成長を止めてしまったら、
どういうことになるだろう」

まったくである。止めたがため
に、自身を見失い、生徒との間に
溝を作ってしまうという大馬鹿を
やってしまったのだ。

これを通して、生徒から教育者
になることの難しさを教えられた
気がする。私は、自分の好きな英
語を少しでも楽しく教えられて、
生徒には外国語に対する興味を持
ってほしくて英語の教師になろう
と決めていたのに、いつの間にか
それを忘れていた。そして、その
原点を思い出させてくれたのも彼
女たちである。感謝してもしけれ
ない。本当に生徒たちを大切にし
たいと思ったのもこのときだ。

楽しく分かりやすく生徒に英語
を教える。教科書だけの授業では
なく、いろんな意味で視野を広が
られるような授業展開をしていく。
生徒のためには時間を惜しまない。
もちろん、私自身のことも語って
いくことによって、生徒の中へ入
っていく。

これらのことをすべてできてい
たかは分からないが、意識しなが
ら、がむしやらに取り組んだ昨年。
気が付けば頑張って成績を上げ
た生徒がいた。彼女たちと、将来
のことや友人のことについて対話
ができていた。そして、今年の春
に私が担当しないクラスに行っ
てしまった生徒から、私の授業が一
番だと言われたことがあって、こ
の時ほど頑張った良かったと思っ
たことはなかったし、やっぱり生
徒が可愛く思えて仕方がなかった。
今年ももう2学期である。昨年
とは違うことで悩んだり、壁にぶ
つかってはいるが、その一つひと
つを生徒ともに、二人三脚で頑張
って乗り越えていきたい。

大阪市内の某女子校で英語の講
師をしている。
気が付けば早いもので、教壇に
立つてもう2年目に突入。そして
相も変わらず、生徒が可愛くて仕
方がない。
例え：授業中にボケベルが鳴ろ
うが、化粧直しをしていようが、
妙に冷めた態度で人の話を全然聞
いてなくても、だ。
まあ、こんな冗談のような事実
に最初、戸惑いを覚えるのも通り
越して、「自信喪失」というジエツ
トコースターで一気に「登校拒否」
のレールを走り落ちそうになった
ほどである。まったく情けない話
だ。

私も生徒だった頃に先生の話を
聞かなかったことはあったが、授
業中に化粧直しをしたり、ボケベ
ルが、鳴ることはなかった。当時
はまだおしゃれに興味がなく、ボ
ケベルなんてものを持って当たり
前の世代でなかったからだ。
自分自身の高校生活を振り返っ
て、今の彼女たちの高校生活を比
較したときに思ったことは、
「ああ、世代のギャップが…」
である。もう、全然わからない。
彼女たちが何を考え、これから先
どうしていききたいの、ということ
なんて。



だが、生徒が全員こうなのでは
ない。一部のだがこの一部がよ
く目立って、全員がそうであるよ
うに思えてしまう。
「このクラスは苦手。何を考えてい
るのか、わからん」
「なんで、みんな言うことを聞かん
のや？」

関東支部便り



昨今の円安・ドル高、株価全面安に対してアメリカでの高騰。80年代までの日本が世界の中で一国だけ優れていると言われた事。例えば終身雇用・年功序列・組織行動がもたらした効用、さらにそれを助けた日本の詰め込み主義の教育。当時は欧米各国から賞賛の声が上がっていましたが今は隔世の感があります。私たちはその頃のある種の期待感や優越感を今も引きずって来ましてしまっているし、今がまんすればまたいつか良くなるのでは？ という根拠のない期待を持ち続けている。

最近ピーター・タスカの「不機嫌な時代」を読んで私が常々思っていた日本の政治・経済の悪習をずばりついでている点。特に官僚の悪業の数々。毎日新聞を賑わしているのは氷山の一角でしょうが、私たちが一人ひとり非常に小さい力しかないが、事ある毎に是正する方向の選択をすればそれが大きくなりつつあって表われてくるのは、間違いない事です。何と

言っても大衆パワーが時代を動かすのです。幸いな事に私たちはカトリック系の文化系大学出身なので良い意味で経済から一步離れた所から客観的に物を見られるのですから。

最近の日本の余りのひどさに苦言を書いてしまいました。私たちが新役員は今まで6年間で築いた支部の土台を支えに試行錯誤を繰り返しながらレベルアップしてゆ

きたいと常々話し合っております。

●2月22日(土)

「第2回 家族そろってボーリング大会」

総会には参加できない(したくない)がリクリエーションならだんだん参加したいと考えていらっしやる方をメインに企画。特に今回はお子様を無料招待して家族ぐるみの和気あいあいとしたイベントにできるよう、目下準備中です。(この会報が出る頃には結果も出ているでしょう。)

●6月21日(土) 予定

第7回 支部総会兼昼食会

毎回新しい会員の方が出席してくださるのですが、その都度都合がつかなくて欠席される方もいらっしゃるわけで、平均して30名弱の方々に出席していただいております。発足当時に比べると出席者も増え明るいムードの中、色々な話題で盛り上がっています。第5回の時は中野学長と野村会長にお越し頂き、また昨年は松本神父と佐伯先生においでいただきました。今年も皆様のご期待にお応えでき

る様鋭意検討中です。

さてこの3年間は英知の卒業生の王さん(旧姓須原さん)が経営されている高級な中国料理店「香港園」に無理やりお願いして、総会兼昼食会をさせて頂きました。誌面をお借りして改めて感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございます。毎年、今年こそ、迷惑をかけないように、他の会場を探すのですが、なかなか思い通りの所がなく、ついつい甘えてしまいます。今年こそ...?

東京にお越しの節は是非日黒駅西口徒歩3分「香港園」にお立ち寄り下さい。(ちよつとコマージュでした。)

最後に関東支部の大きな特徴ですが、情報ネットワークについてお話しします。この考え方のベースは前号にも書きましたが、希望したしないにかかわらず慣れた土地から遠く離れて生活するに当たって、不便に感じる事が多くあります。あらかじめ知りたい事を登録しておけば誰かが応えてくれる。また同じ趣味の者同志が集まって輪を広げる事もできる。就職難のこの時代に新卒者で就職に困っている人が居ればできるだけ援助したいとも考えています。

今年一年、本部の方々と連携をとりながら、より良い同窓会活動ができるよう頑張りますのでご支援の程よろしく願います。

関東支部 永森孝夫



4月13日

阪急芦屋川駅に
集まれ!!

皆さん、春の六甲山を満喫しましょう!! 阪急芦屋川駅を出発し、六甲山頂をへて有馬までの間を歩いてみませんか?

歩く時間は約4時間。心地よく疲れた後の有馬温泉と、湯上がりのビールの味は忘れられないものになりますよ。ぜひご家族でお越しください。

●日時/1997年4月13日
日午前9時30分

●集合場所/阪急芦屋川駅

改札口

※各自、水筒・お弁当を持参してください。また、帰りのバス代などは各自の負担となります。有馬温泉(銭湯)ではビール1杯まで、同窓生に限り同窓会が負担する予定です。

クラブ紹介

新文学研究会

さて、今回は同窓生の方々へというのですが、私たちの部はまだ10年と歴史がありません。だから、あまり広くは知られていない。よって、基本的なことから紹介することにします。

大学生ともなれば、部員それぞれに自分のしたい事やしななければならぬ事(例えば大学の勉強や、アルバイト)があるでしょう。そのために日々の活動は、部員を縛ることはなく悠々自適、かつ計画性のあるという相反するものを両立し、使い分けることのできる部をめざしています。

部員総数20人。月に一度の会誌『やみなべ』、季節ごとに『文学無法地帯』、文化祭には『翫天』と『ぬえ』を制作することです。文学研究会というたいそうな名前ですが、要は文章を書くことが好き

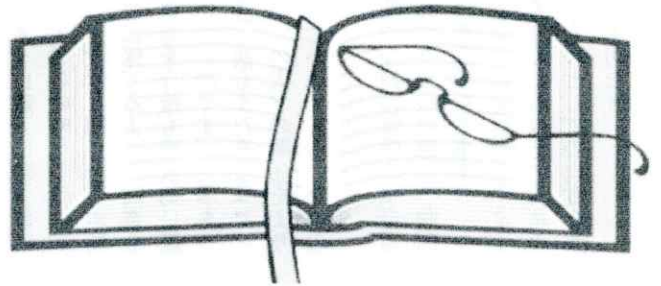


学園祭前「翫天」編集中

な人間の集まりです。(その筈です)書くことがメインと言われればそうなのですが、それだけではありません。前文で説明した発行人物を、すべて手作業で制作しているのです。何かと費用がかさみ、いろいろと不備が出ることも多々ありました。それでも現在まで…浅い歴史ですが、続いているということは、諸先輩方の努力の賜物でありましょう。

現在、部としての関心事であり、現役部員の私としても最も頭を悩ませ、それと共に期待も大きいのが新入部員の勧誘です。すでに1月の終わりから分担作業を始めており、気合いも十分。私が入部したときは二回生がおらず、私たち一回生も、三回生、四回生の先輩方も苦労しました。私たちが、そのようになさなくてもいい苦労をしないように、そして何よりも、再来年の(入ってきてくれると仮定して)新入生が苦労しないように、

BOOK REVIEW



ヌサンタラ・インドネシア

英文科3回生 平田愛

三浦太郎氏が執筆されたこの本は、海外を一度も旅行したことのない私にとっては、難しく遠いものだった。読んでいくうちに「へえー。こんな場所にこんなものがあるのか」と知らないことが次々とページをめくる度に出てきたが、真に迫るものをどうしても感じる事ができず、なんだか腑に落ちなかった。あまりにも自分のアジアに関する知識のなさとして遠い存在の出来事のように、ただ客観的に読むことしかできなかったのだ。

本の中に飛び込んで、作者と作者の家族と同じ旅行を楽しみたかったが、楽しむどころか、圧倒されていた。はずかしながら、マレーシア、シンガポール付近にこんなに沢山の島々があることも知らなかった次第である。

しかし、作者が織りなす話の展開は、私のアジアに対する価値観を少しずつ変えさせていった。私は以前からアジア、東南アジアにたいして偏見を持っていた。もし、旅行をするなら、絶対にヨーロッパかアメリカか決めていた。アジアを旅行するなどということとは全く選択肢に入っていなかった。先入観からくる偏見の気持ちでいっぱいだったのだ。

だから「アジアに興味を持ってます」とか「今インドのどこそこにいる」と言っている私と同じくらい年齢の女性をテレビで見ると、私はどうしても理解できず、首を傾げて、疑っ

ていた。

しかし、この本と出会ってその謎が少しずつ解けていった。著者が本の中で、彼が訪れた国のことを大切に想い、優しく包みまた、伸び伸びとした気持ちで書かれてあるのを強く感じた。著者が感じた気持ちが文字として私の目に入ったとき、それは文字ではなく、彼が話している言葉のような錯覚にとらわれた。私がこの本と出会ってよかったと思うのは、私のアジアに対しての価値観が少し変わり、今までのアジアに対しての偏見の気持ちが揺らぎ始めていくこともあるが、それ以上に著者が訪れた国々を大切に想い、大事に見守る暖かい心を持っていることを知ることができたことだ。私はそんなふう

に今まで考えたこともなかった。その訪れた国の歴史、文化そういうものを全部ひっくるめて、優しく包み込む。そんな人間っぽい心がどれだけ貴重、言葉の汚れもなく、ただ純粋で一番簡単なで、一番難しいその気持ちを私は知らなかったような気がする。

本の中の世界を著者と著者の家族と一緒に過ごさせていたとき本を閉じたとき、本の中のいきいきとした文字達が、私に何か話しかけようとしていた。それは、偏見を持つとか、アジアですてきたよといった意味あいの言葉ではなく、ただの沈黙の中にひっそりと考える時間を与えてくれる音のない言葉だった。著者が抑圧的にアジアの魅力や語らないことが、私の胸を打った。心からうれしく思った。この本に出会う機会を与えて下さった三浦太郎氏に感謝したい。

同窓会と大学の関係を

有機的なものにし

大学冬の時代を乗り切りたい

国際言語教育センター所長

井田規文

先頃、私ども英知大学国際言語教育センターは、同窓会事務局の藤本氏より朗報を受けました。かねてお願いしておりました留学する在生のため奨学金の額を本学が支給する留学奨学金と同額の50万円まで同窓会予算に計上できるといふ知らせです。まずは、ご配慮いただいた同窓会会長はじめ役員の皆様には、留学をめざす学生たちになりかわり、厚く感謝申しあげます。

私どもの感謝には二つの意味での感謝と、一つの希望が含まれております。この留学奨学金を従来10万円から5倍の50万円をお願いして、その希望を叶えてくださったことに対する感謝であることは申すまでもないことです。同窓会が卒業生のみならず在生のために支援体制を整えてくださることに、同窓会の「英知大学をこよ

として献金を当センターの前身、旧国際交流委員会に寄せられ、正にバブル期・円高の波に乗って留学した学生が今よりは多かつたのは事実であります。勉学への動機

なく思う心」が伝わってきます。大学に勤める者としては、在生と共に大いに感謝しなくてはなりません。

もう一つの感謝の気持ちは、こちらの方をもっと声を大にして言いたいのですが、同窓会の会としての意欲・意気込みの強さへの感謝です。

実は、今年97年度より、留学奨学金の増額をお願いするに際し、私どもには多少の躊躇がありました。景気回復が遅々として進まず低迷が続く日本経済にあつて、同窓会もその影響は拭い取れないのではないかと。実際にご無理願えたとしても同窓会運営に経済的支障を来させはしまいかと、心苦しくも感じたことでした。正直に申し上げますと、今もその心苦しさを抱いております。バブル期には企業からも奨学金

とて献金を当センターの前身、旧国際交流委員会に寄せられ、正にバブル期・円高の波に乗って留学した学生が今よりは多かつたのは事実であります。勉学への動機

そこで最後に私どもの一つの希望であります。17歳人口減少傾向にあつての大学冬の時代を生き抜くためには、大学と同窓会との関係を有機的に保てるよう、同窓会としての努力を今後も意欲的に続けてもらいたいです。大学あつての同窓会、逆もまた真なりで、同窓会あつての大学の関係をより明らかにしていってほしいです。

その意味で今回の留学奨学金増額は、改めて今後の同窓会の動向を占うのに意義のある事業の一つであると、大学・同窓会のますますの発展を希う私どもはその責務の一端を担うものとしての自覚を改めて強めております。

THE EDITOR'S COMMENT

今回の会報より、編集方法、レイアウトを一新しました。

会員の方々から、読みにくい、記事が固い、もっと楽しめる内容を、とのお叱りを多く寄せて頂きました。編集作業を進める私としても、これらありがたい助言に前向きに取り組んでいく覚悟です。

レイアウトは読みやすさと、紙面の組みやすさを考えて縦書きとしました。縦書きにしたものの、数字の表記方法などまだまだ私自身の中で迷いがあります。漢数字は読み慣れている人が少ないとの判断で、基本的に使わない方向で今回の会報は編集しています。

また、総会の決議や予算案など、本来会報でお伝えすべき重要な内容をひとまとめにして別紙に印刷することにしました。これにより、会報は皆様に楽しんでいただく内容を中心とすることができ、反対に別紙は必要事項としてより一層目を通して頂けるのではないかと考えております。

前回までの会報で、英知大学同窓会会報の骨組みはできあがったように思います。これからはこの会報に肉付けをしていかねばならないと考えています。これまでの

会報も皆様のご鞭撻や協力がなければできあがりませんでした。これからの会報も皆様のさらなるご協力、ご尽力がなければ成功しないでしょう。なにしろ、これからは会報を大きく育てていかねばならないのですから。

引き続き、原稿を募集いたします。詩や随筆、クイズ、イラストなど同窓会に関係がないように思われるものでも大歓迎です。また、この会報の不備などをお叱りください。より読みやすく、楽しめる会報を目指していきます。

最後になりましたが、会報の編集作業、レイアウト、記事集めにご助力頂いた方々に深く感謝いたします。

会報を初めて手にされた新入生の皆様、ご入学おめでとうござい

ます。この会報は3月に発行されました。内容が卒業生に向けたものとなつてい

なつていのはそのためです。同窓会では入学された方全員を準会員として位置づけし、支援してまいります。

英知大学同窓会総務委員会

